

おひとりさま

今日け ひろく 手紙でもかこころと

思つたか さてたれにかこころかと思つた

時ハハと困つたかきん相手がいらぬ

小学校 木通の山手校の友は 終戦の折と

こへ別れたかむらさきの山 杉田の友人は

一人の一本とよとて入陸中も山 宣戦の時

多運は 皆それく かんはつてりおれし

山手か 魂を ぞとてて話をするやけうん

つまらふ手紙をきき 相手がいぬの

美空由緒は二人いづれ だててやう

私の今同国節はさぬ 存<sup>まご</sup>しむ 情勢はつた

昔の長年と死人は もういらぬ

秋夜 こころいふ平は 困つたのころいふ

ろれく山手かあるの と言ふ相手はいるもの

だ 語りあえる人がいぬのさうや

実にかさむし

今年が友人を かくさぬ 隣つていれは

い 花 と 序更 後悔していら

魂 掃て友人を つくろ 友人はつた

今の 信頼関係は 白紙に戻さる

現在 争ひは中の人へ へんがしは

いかにしつて経済法に 対して 富科臣節と

内科の 医師は 甲斐の 中をりたけり

現在の日を 正し 正當の 争ひを

皆か 争ひの上 国経 不 争 争

争ひ 争ひ 争ひ 争ひ 争ひ

一人で 自ら 知 たり 綱 綱 綱

それ 者 自分 への 勉強 だ

独 を 争ひ 争ひ 争ひ 争ひ

綱 綱

争ひ 争ひ 争ひ 争ひ 争ひ

争ひ 争ひ 争ひ 争ひ 争ひ

2020  
1/16